



このたびサステナビリティ基準委員会（SSBJ）の委員に就任しました川那部です。

2022年1月に先んじて設置されたSSBJ設立準備委員会の委員として、これまで半年間に亘り、主に国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）によって公表されたプロトタイプおよび公開草案について議論してまいりました。日本がグローバルなサステナビリティ開示基準統一化の動きにいち早く対応し、SSBJの設立に至ったことは、この分野に対する国内の関係者、またステークホルダーの皆様の強いコミットメントの表れだと感じます。そうしたなかでSSBJの委員を務めさせて頂くこととなり、改めて気の引き締まる思いです。

ISSBの公開草案では、いわゆる財務報告とサステナビリティ報告を一つの媒体で行うだけでなく、それぞれの情報が有機的につながり、一体として企業価値評価に有用な開示となるよう求めています。こうした開示は、2013年にIIRC（国際統合報告評議会）が公表した「国際統合報告フレームワーク」や、2017年に経済産業省により公表された「価値協創ガイダンス」を踏まえた統合報告、また投資家やESG評価機関、NPO/NGOとの対話による情報開示の拡充などを通じて、企業の実務に広がりつつあります。

こうしたなかで、作成者の開示負担は増加傾向にある一方、利用者からは比較可能性などの課題も指摘されており、今後より双方にとって納得感のある、そして有意義な開示が促進される基準づくりが望まれます。

所属先である大和証券グループ本社では、作成者としてサステナビリティ開示を担う一方、金融機関として利用者の皆様との接点も多くあることから、「作成者」と「利用者」の橋渡し役として、基準づくりに貢献したいと考えています。

またサステナビリティ開示基準の検討にあたっては、「財務会計」と「サステナビリティ開示」という二つの分野において、それぞれの専門家や実務者がお互いの専門領域に一步踏み込み、実務や考え方を共有・理解することが鍵となります。そうした意識を強く持ち、今後議論が始まる国内のサステナビリティ開示基準の開発を含め、SSBJの活動に真摯にそして積極的に取り組んでまいります。